

私の夏休み

開倫塾

塾長 林 明夫

<8月9日>宇都宮

開倫ユネスコ協会主催第2回「デザイン大賞」表彰式。LOVE and PEACE(愛と平和)をテーマにした受賞ポスターの展示を見て、子どもたちの創造力の大きさに感銘を受けました。審査委員長をお願いした吉田正之ホットスタッフ代表の「ポスターの力」と題する記念講演会では、表現は世の人々の心を動かし、歴史をも変えることもあることを学びました。

<8月15日正午>足利

「平和の鐘を鳴らそう。」開倫ユネスコ協会の呼びかけに、足利市内の寺院の多くがお応え下さり、8月15日の正午に平和を祈り鐘を鳴らして下さいました。国際連合の平和決議に基づいて、日本ユネスコ協会連盟では、昨年より、8月15日正午に「平和の鐘を鳴らそう」運動をスタート。本年より本格的な活動を始めた開倫ユネスコ協会でも、初めてのことでありますが、できる範囲のことを行おうと、足利市内の寺院をお願いして、実現した。鐘の代わりに平和を願い、音の出るものを鳴らして下さい方も多かった。同時刻に開倫塾で勉強していた塾生には、ユネスコの「平和宣言」を読んで頂いた後、平和を願い音の出るものを鳴らして頂いた。

<8月20日より>

開倫ユネスコ協会主催「第2回エッセイコンテスト」スタート。「私の中の平和」をテーマにしたエッセイコンテスト。小学生から一般の方まで、平和について自分の立場で、できるだけ深く静かにお考えになったことを、文章で表現して頂ければと企画したものだ。開倫塾では、小学校や中学校の国語教科書に掲載されている文章を教科書にして、塾生の皆さんにエッセイを書いて頂きました。(ほとんどすべての小学校、中学校の国語の教科書では、7月と9月の勉強として「平和」に関する文章が載せられています。子どもたちは、大人よりもまじめに、真剣に「平和」を考えているかも知れません。)

<8月20日、21日>東京

早稲田大学、早稲田大学 IT 教育研究所主催の「国際教育シンポジウムとワークショップ」。「ネットワーク時代の教育システムを考える」がテーマ。教育の分野でIT技術をどのように活用すべきか、どのようにシステムを築き上げるべきかをテーマに、早稲田大学をあげての最先端の本格的な議論が展開された。

<8月28日、29日>東京

ジエトロ主催「世界高齢化会議」。日本貿易振興会(JETRO)のメンバーになっているためか、招待状を頂いたので、参加させて頂いた。「公的年金改革」「高齢者雇用」「高齢化社会の生活性向上」「女

性の雇用」「高齢者の海外での終業移民」「高齢者の資産運用」などをテーマにした。日本政府と米国の戦略国際問題研究所(CSIS)が中心となった大研究プロジェクトの研究成果の最終発表会。栃木県や足利市にあっても、まだまだ取り組まなければならないことは山のようにあり、又、ビジネスチャンスも山のようにあると痛感した。ソニーの「ロボ犬」よりも、もしかしたらはるかに暖かみのある、工業技術院でつくり上げつつある「らっこ」と「小犬」のいやし系の実験ロボットは大人気だった。

<8月29日>宇都宮

栃木県経済同友会第1回社会問題委員会。前期2年間の「環境問題」と「教育問題」の研究成果をふまえた栃木県知事への政策提言が終了したので、新たな2年間の期がスタート。第1回目はテーマ決めのための議論。セイフティネット、安全な社会を検討するという大方針は、事前のアンケート調査の結果、ほぼ決まっているので、具体的にはどうしたらよいかの議論。私は「治安の維持」つまり「人手不足の極地まできている警察行政をどのようにたてなおすか」をテーマにしたらとの提案をした。家庭内暴力、学校内暴力、IT犯罪、外国人犯罪、広域犯罪、経済犯罪、薬物犯罪、被害者への対応と、物理的に現在の人員ではどうも対応不可能と考える。検察官や検察事務官、保護監察官、保護士、刑務所、刑務官も状況に応じて今の2～5倍位に増やさないと、時代に対応できない。失業率が10%以上になれば警察や検察、矯正関係者への社会の需要が一気に増えるのは、欧米の経験を勉強すれば誰にでもすぐわかる。治安の維持のために準備するのは今の内。やり遅れると、文字通り「どろぼうを捕らえてから縄をなう」ことになってしまいます。

<8月30日、31日>宇都宮

栃木県教育委員会からの依頼された公務に従事。栃木県の教育をもっともっとよくすめのために、どうしたらよいかを教育委員会を中心に先生方がお考えになり、又実行に移されているのを目の前で見て頂き、感銘深かった。

<9月1日>東京

第17回国際問題研究会。東京都千代田区神田昌平町の昌平童夢館内にある、昌平小学校の教室をお借りしての、上智大学公開学習講座国際関係論受講生が中心になっての4～6名と小規模の研究会。昨年より、毎月1回3時間、国際問題についての英語での討論会を続けている。発表者は毎回3～4名。各自の問題関心に基づいて1か月間勉強してきた内容を英語で発表。発表後、英語でディスカッション。10月13日(土)統一テーマは「アメリカのテロ事件から21世紀の国際情勢を考える」とか。

<9月4日>足利市

足利商工会議所情報教育部会の役員会。日本の商工会議所の中でも珍しい情報部会。教育部会の活動をどう活性化するかがテーマ。かつて「学問的中心」であった「足利学校」のある街にふさわしい活動を、商工会議所としてどう展開するかを考え、少しずつ実行に移したらよいか考えた。

<9月4日>東京

一ツ橋ビジネスレビュー主催特別セミナー「ヤマトに関するケーススタディ」。担当は一ツ橋大学イノベーションセンターの米倉誠一郎教授。元社長の小倉氏をおよびしてのケーススタディ。社会人

が山のように参加していた。栃木県や足利市でも、早くこのような本格的な勉強会を数多く開き、社会人に勉強の機会を設けなければと思った。

<9月5日>東京

日本経済新聞社主催「世界経営者会議」特別セッション。日米 IT トップ会議シスコスティーブのジョン・T・チェンバース社長とソニーの出井伸之社長の講演とディスカッション。

<9月6日>ツーリング・モテギ

栃木県経済同友会総務企画委員会。

<9月6日>東京

第99回アキレス・クラブセミナー。15年ほど前に始まった河端真一学究社社長を主宰者とした学習塾経営者の研究会。各塾からの報告につづき河端先生からの講演と QandA という形式が99回続いた。今回のテーマは、ここでも「コーポレートガバナンス」。「学習塾におけるコーポレートガバナンス」をどう考えればよいのかがこれからの大きなテーマになると思います。

<9月7日>東京

経済産業者の研究所である経済産業研究所(RIETI)主催の RIETI 政策シンポジウム「活力ある経済を支えるセイフティネット。システムとしての再設計」に参加。私は、スタンフォード大学の教授でもある青木昌彦所長のファンなので、RIETI のホームページを週に1~2回見ている、この勉強会を見つけ申し込んだ。

*ワシントンD.C.の世界銀行のワークショップに98年に2回参加したが、このような勉強会が毎日のように昼休みに開かれているのを思い出した。

<9月8日、9日>東京

第2回日本評価学会(JAPAN EVALUATION SOCIETY)が玉川大学で開催された。行政評価に関する学会の第2回大会なので、全国から数多くの、ODAも含めて行政評価の専門家が参加。PFIや公共部門の民営化プロセスの行政評価が私の問題関心。少しずつこの分野でも研究をすすめたい。

<9月11日>東京

Conference Board(カンファランス・ボード)というアメリカの経済界では知らない人がいないほど有名な経済団体の、日本での会員3社のうちの一社が開倫塾。「アジアのコーポレートガバナンスに関する現状について」の勉強会がカンファランス・ボードの研究者であるベレン・ビアン氏を中心に行われた。私は本年7月11日から13日に「インタナショナル・コーポレートガバナンス・ネットワーク」第7回世界大会に参加し、それを機会に「日本コーポレートガバナンスフォーラム」の会員にさせて頂いた。地方の中小企業であってもコーポレートガバナンスは大切だと思う。又、PFIや民営化企業のコーポレートガバナンスも私の研究テーマなので、最近はやい勉強ができて幸せ。

<9月12日>水戸

茨城県経営品質協議会での研究会に講師としてお招きされたので、開倫塾のスタッフ3名とともに

3時間のワークショップ形式の研究会を行った。

<9月14日>宇都宮

第5回栃木県 IT 経済戦略会議。情報インフラ整備が今回のテーマ。CATVを中心に県内でやり残した施策を最後までやり終えること。税収が激減するデフレ経済下なので、情報インフラ整備についても優先順位をつけ、後年の行政評価に耐えられる内容にすべきこと。どうしても県庁を建てなおすのなら、電子県庁化を徹底的におしすすめ IT による行政評価、IT による入札制度などにより、行政の効率化をおしすすめるべきこと、などを提言。

<9月17日>東京

ホテル・オークラ・ランチョン・ミーティング。講師はハーバード大学行政大学院(ケネディ・スクール)ジョセフ・ナイ学長。テーマは Globalization and Discontent。グローバリゼーション(世界化)とディスコンテント(不幸)。残念ながら、9月11日のテロ事件のため講師が来日できず延期となりました。テーマ通りの展開になりそうで、複雑な思いがしています。

9月17日記